

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
基本的生 活習慣の 確立	(全校レベル) 1) 生徒指導を徹底し、基本的生活習慣の確立に努める。 2) 自他の人権を尊重する態度を育成する。 3) 交通安全を指導し、命の大切さを教育する。	評価指標 1) 頭髪服装指導を毎月実施 ----- 2) -1人権学習HRを各学年7回実施 ----- 2) -2いじめ・暴力行為をなくす ----- 3) 交通ルールやマナーを守る	評価指標の達成度 1) 頭髪服装指導の毎月実施率100% ----- 2) -1人権学習HR7回 各学年達成 ----- 2) -2いじめ・暴力行為が数件あったが、いずれも早期発見に努め解決できた。 ----- 3) 大事故には至らなかったが、自動車との接触等の交通事故件数が増えた。	総合評価 (評定) B (所見) 全教員が関わり頭髪服装指導を徹底した効果がみられた。いじめ・暴力等は被害者の立場に立ち全ての事案で早期解決できたが、今後はそういう事案が発生しないよう人権意識を高める指導を続けていく必要がある。また、まだ一部に社会生活をしていく上でのマナー(挨拶・行動)が欠けている生徒がいるが、全職員で根気よく指導を続けていきたい。	○学校での活動、行事の様子などをもっと知りたいので、HPや手紙等で情報をたくさん提供して欲しい。 ○子どもは学校生活を楽しんでいる。これからは根気強く、厳しく指導して欲しい。 ○服装・頭髪などの身だしなみがきちんとできていない生徒がいる。家庭との連絡を取りながら、厳しすぎないように指導して欲しい。 ○食事・睡眠・勉強など規則正しい生活が送れていないため、遅刻や欠席が多くなっている。 ○部活動をもう少し活性化してほしい。指導者には経験者を置いて欲しい。 ○自転車のマナーが悪い。携帯電話使用や音楽を聴きながらの運転は危険である。
	(下位組織レベル) ① 授業、部活動等学校生活すべての場面での生活指導 ② 保護者、地域等との連絡強化 ③ 交通安全指導・挨拶運動の実施 ④ 生徒の心身の健康	活動計画 ①-1 生徒指導課を中心に、各学年団で毎月1回頭髪服装指導を行い、事後指導も徹底して行う。 ①-2 授業の受け方(態度や課題提出等)などの入門講座を入学時に実施する。社会で通じる「聞く」「話す」等の態度や期日を守る態度を授業中に指導する。 ①-3 すべての授業で挨拶や身だしなみを指導し、特に体育科では集団行動の指導を徹底する。 ----- ② 遅刻カード(授業遅刻も含む)への記入を徹底し、家庭への連絡を速やかにする。遅刻回数が多い生徒は、保護者と学年主任・管理職等との面談を実施する。 ----- ③ 登校時、校門前での交通指導と挨拶運動を行う。 ----- ④ 心の悩みが聞ける雰囲気をつくる。睡眠や食生活の大切さを、養護教諭や体育・家庭科の教員、教育相談課員等で連絡を取りながら教える。	活動計画の実施状況 ①-1 全校一斉での頭髪服装検査後も個別に再検査を行い、合格するまで根気強く指導した。 ①-2 新入生を対象に入門講座を実施した。様々な場面において適切な行動がとれるよう生徒が自ら考え、討議し発表し合う学習活動を多く取り入れた。課題等の締切日を黒板に掲示した結果、提出率は上がった。 ①-3 授業開始時の挨拶等を根気強く指導した。集団行動の指導により、積極的・自主的な活動が見られるようになった。 ② 月平均の遅刻者数は月によって異なるが、前年度より若干改善された。遅刻早退が各学期で10回を超えた生徒の保護者とは、すべて面談を実施した。 ③ 生徒会役員、野球部員とともに毎朝挨拶運動を行い、自転車のマナーについても指導した。 ④ 養護教諭から保健室を利用する生徒の様子を聞き、担任や学年団で対応した。昨年度は不登校傾向にあった生徒が、本年度は登校できるようになった。		
	(全校レベル) 1) 基礎学力の向上を図る。 2) わかる授業を展開する。	評価指標 1) 授業内容の研究(教科会・公開授業) 各学期1回 2) 授業評価アンケートで生徒の満足度80%以上	評価指標の達成度 1) 初任者研修を兼ねる形で公開授業を実施。学び直し教材「smile」は、計画的に活用できた。 2) すべての教科で生徒の満足度80%以上、95%を超える教科もあった。	総合評価 (評定) B (所見) 今後も教材の工夫・精選をし、授業方法の改善に取り組むと	○多くの選択科目や少人数授業など、単位制を生かした教育課程が充実している。 ○生徒の授業満足度の維持・向上と、「smile」について、生徒の評価を得て、内容や扱い方の改善を図る。
	(下位組織レベル) ① 学び直し教材「smile」の活用	活動計画 ① 1学年の国数英で学び直し教材の活用を徹底する。	活動計画の実施状況 ① 学び直しについては教科会を開き、全員で内容を検討した。		

<p>確かな学力の育成</p>	<p>②授業評価結果の活用</p> <p>③教材の精選や授業の工夫、校外の講座等の参加、各種資格取得</p> <p>④学習時間の確保</p> <p>⑤図書の貸し出しの推進</p> <p>⑥不登校傾向の生徒の学びの場の保障</p>	<p>②生徒を対象に授業評価アンケートを年2回実施する。教科会を開き、参加意欲の低い原因を探り改善に努める。</p> <p>③実験や実習を多く取り入れ、生徒が興味関心を持てる授業を展開する。</p> <p>④チャレンジタイム(テスト前の自主学習時間)や週末課題の実施等で学習時間の確保をする。</p> <p>⑤入学時のオリエンテーションや読書マラソン等で、読書を促す。「図書館便り」で本の紹介をする。</p> <p>⑥本人の希望を聞き、家庭訪問時の授業プリントの持参や別室登校の措置をとる。学年会は毎月、教育相談課会議は学期ごとにとり共通理解をはかる。</p>	<p>②6月と11月にアンケートを実施した。11月の結果では、授業の工夫・説明の仕方・板書・教員の熱意等すべての項目で評価が上がった。</p> <p>③授業アンケートの結果、その科目に対する興味があると回答した生徒は6月74.4%に対し11月80.2%に上がった。</p> <p>④12月の生活実態調査では、前年に比べ1年は約12分増、2年はほぼ同じ、3年は約16分減少した。週末課題や長期休暇課題の提出率は80%を超えた。</p> <p>⑤オリエンテーションは視聴覚教材を使って工夫した。「図書館便り」を見て来室する生徒もあった。図書館行事は概ね生徒に好評であったが、貸出数に関しては、生徒の活字離れを如実に示している。</p> <p>⑥学年会で不登校気味の生徒の現状や対応への共通理解をはかったが、個人情報に関するため全体で話し合うことのできない場合もあった。</p>	<p>ともに、わかる授業を展開できるようにしていきたい。学び直し教材「smile」については、使用中で改善点が出てきたため、次年度に向け英語、国語の大幅な改訂を行う予定である。基礎学力の向上のためには、生徒の興味・関心も考えた教材を選び、自ら学ぼうとする姿勢が大切である。</p>	<p>○週末課題や宿題は家庭学習に役立っている。もっと量を増やすなど内容を検討して欲しい。</p> <p>○資格試験(英検等)を学校でできるようにして欲しい。</p>	<p>○家庭での学習時間を増加させる方を考えていかなければならない。</p> <p>○1学期は不登校傾向の生徒が同時期に複数重なるのでその対応がなかなかできない。担任が問題を抱え込まないようにするために多くの教員で相談にあたりたい。</p>
<p>進路指導の充実</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>1)多様な進路を希望する生徒の特性や個性に応じた進路指導を充実する。</p> <p>2)教育課程を充実する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①進路相談の機会の増加</p> <p>②進路別の補習授業</p> <p>③生徒、保護者の希望進路の実現</p> <p>④進路関係図書の貸出促進</p>	<p>評価指標</p> <p>1)各学年とも年2回以上の進路ガイダンスを実施</p> <p>2)学校評価アンケートで、教育課程の充実度を70%以上 生徒対象の科目選択説明会実施 学年団による科目検討会実施</p> <p>活動計画</p> <p>①放課後等にも進路の個別相談に応じる。個々の進路に応じた課題を準備する。</p> <p>②進路別の補習参加人数が5割以上を目ざす。</p> <p>③担任による電話連絡や面談等をする。学校行事で進路に関する情報を伝える。PTA研修会で県内外の大学・専門学校訪問を行う。</p> <p>④進路関係図書を特集展開する。関連図書の貸出数をのべ15冊以上にする。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>1)校内の進路ガイダンスは予定通り実施できた。校外でのガイダンスは、オープン・キャンパスが主流となってきたため、参加者は減少した。</p> <p>2)ほぼ充実している以上の割合は、生徒約75%、保護者約83%、教員約80%であった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①進路希望に応じた対応は概ねできたが、参加人数を増やす必要がある。1. 2年生への対応ができにくかった。</p> <p>②補習参加人数は平均して5割を上回った。</p> <p>③保護者の要望により、今年度は大学だけでなく専門学校の訪問も行った。また進路保護者会も実施し、必要に応じて個別面談も行った。</p> <p>④図書館入口の目立つ場所に特集展示、「図書館便り」で紹介した。貸出数は15冊を上回った。</p>	<p>総合評価(評定)</p> <p>B</p> <p>ホームルームでの進路指導は、生徒の実態に即して実施できた。オープン・キャンパスは、医療系の学校を中心に参加者が増加傾向にある。今後も、生徒の多様な進路希望に応じていくため、大学入試にも就職にも適した教育課程を編成していく必要がある。また生徒と教員がじっくり話し合える場所と時間をどう設定していくかも課題である。</p>	<p>○学年が上がるにつれ、科目選択や将来の進路について家庭でも話をするようになっていく。進路指導をもっと活発にして欲しい。2年生ぐらいまで、まだまだ現実的に考えていないのではないか。</p> <p>○1年でのインターンシップは職業観の育成に有意義である。今後も続けて欲しい。</p>	<p>○科目選択のガイダンスを充実させると共に、より良い教育課程の編成に努めたい。</p> <p>○今後は、大学だけでなく会社訪問なども視野に入れて、保護者の意見に耳を傾け、行き先について検討する。</p> <p>○3年生を中心に、図書館利用を呼びかける工夫をする。</p>

「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった